

巻頭によせて



校長 北村 聡

Kitamura Satoshi

建学の精神「不撓不屈」は、己（おのれ）自身との戦いを諦めないことを教えています。

ドイツの文豪ゲーテは、その作品『ファウスト』の中で、「人は努力する限り迷うものである」と述べています。迷い悩むこと、それは自分が何かに向かって努力をしようとしているということです。

そもそも人間は生きている限り何らかの努力を強いられるものです。若いうちは尚更のことで、将来に対する希望と不安の間で、自分の目標、将来像について考え、迷い続けます。ときには思い悩んで、連続する苦しみに耐えることが出来ないと、自暴自棄にもなりかねません。しかし人生は「たった一回しかない実験の連続」です。様々な失敗を重ねながらも、決して失望しないことです。

歴史上の多くの偉人たちは、最初から成功していたのではなく、いついかなるときも決して諦めず、失意のどん底にあっても気を滌刺とさせようと努力してきました。そして与えられた環境の中で、少しでも事態を好転させようと考え、行動しました。

大切なことは、愚痴を言って周囲に嫌な思いをさせたり、弱音を吐いて気を落としたりせず、ましてや他人を陥れるようなことをせず、「変えようのない環境を変えよう」とあがくことをしないで、「変えることが出来ること」を実行するべく努力を続けることです。

また、ゲーテは常に「敬虔性」ということを重んじました。敬虔な気持ちを忘れてはいけません。「敬虔性」を失った人間は傲慢な人です。自分が「満点」と誤認している人です。事がうまくいっているとき、ついつい得意になり、周囲が見えなくなることがあります。過度に悩むこともありませんが、有頂天になって敬虔な気持ちを失うことも危険な事でもあります。